

前頭側頭型認知症（FTD）

主としてタウというタンパク質が神経細胞内に蓄積し、大脳の前頭葉と側頭葉に主な病変があり、脳萎縮をきたすことが原因と考えられます。

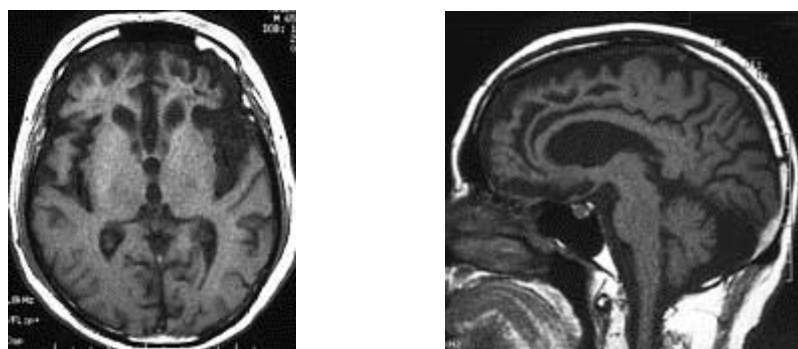
（症状）

感情、意欲、性格の変化（無関心、興奮、聞き分けの無さなど）と言語の障害（口数の減少、小声、理解の悪さなど）、常同行動（同じ内容を繰り返し話す、同じ時間に同じ行動をする、同じ料理を作る・食べる）が見られます。発症の初め頃には、記憶障害はそれほど目立ちません。

（診断）

問診（上記症状と時間的経過）と診察、脳 MRI、脳血流 SPECT で障害部位の病的変化を検討し、診断をつけていきます。

FTD 患者の頭部 MRI



頭部MRI 水平断（左）、矢状断（右）にて両側前頭葉の萎縮を認める。

（治療）

FTD に対して著明な効果を有する薬は今のところ、ありません。選択的セロトニン再取り込み阻害薬（SSRI）の内服が脱抑制や異常行動に有効であるとの報告があります。